

看護実践能力を養うための 自主性・主体性を育てる指導方法 の工夫改善

—統合実践実習に視点をあてて—



兵庫県マスコットキャラクター
はばたん

兵庫県立龍野北高等学校
看護科

1 はじめに

さとり世代の特徴

目立ちたがらない、高望みをしない、過程よりも結果を重視する

本校専攻科の生徒気質

優しく素直、強い使命感、課題に丁寧に取り組む、真面目

生活体験・社会経験が乏しい、

「自ら学ぶ力」や「物事を統合的に考える力」が弱い

自主性・主体性を育てる

2 研究仮説

実習前の講義・演習

自主性・主体性を高める
工夫・改善

臨地実習

指導と評価を一体化

自主性・主体性が高まる

看護実践能力(看護師として生きる力)
が向上する

3 研究方法

(1) 研究デザイン: 量的研究、質的研究

(2) 対象: 本校看護専攻科 2年生 37名 女子

(3) 期間: 平成25年8月～平成26年1月

(4) 場所: 本校並びに各実習場所

4 倫理的配慮

(1) 質問紙によるアンケート

- ・ アンケートに同意したクラス全員を対象
- ・ 無記名
- ・ データ追跡のためIDが振ってあることを生徒に説明
- ・ 自由意思で協力を決定
- ・ 成績には影響しないことを説明

(2) 半構成的面接によるインタビュー

- ・ インタビューに同意した生徒10名を対象
- ・ データは質的帰納的分析を行うため、研究者により逐語録を作成
- ・ 同意撤回書の記入により、同意を撤回できることを説明

※ 兵庫県看護協会の倫理委員会より承認

5 研究経過

(1) 事前学習

患者から質問を受けました。あなたはどのように説明しますか。敬語を使って答えなさい。

1. 「脳卒中と脳梗塞は、どこが違うのか？」
2. 飲み薬を手のひらに乗せ
「この薬を飲み忘れたらどうなるのか？」

質問形式で学習 → 理解度の確認
コミュニケーション能力の育成

(2) グループワーク

グループワークⅠ 患者1名の看護計画

個人ワークを持ち寄り、看護計画をまとめる

グループワークⅡ 患者2名の看護計画

個人ワークを持ち寄り、優先順位を決定し看護計画をまとめる

グループワークⅢ 看護計画の追加訂正

演習経験を生かし、看護計画を追加・訂正する

グループワークの工夫点

<教員の工夫>

グループ編成

各自の発言や
考察を促す関わり

<生徒の行動>

個人ワーク

意見の持ち寄り

グループとして
意見をまとめる

発表・学びの共有

各課題における目標の達成

グループワークの様子

バイタル、先にどっちに行っ
たらいいと思う？



熱がある
肺炎からかなー

あの時の対応は、
あれでよかったかなあ



(3) 実践演習

演習Ⅰ 優先順位を考えた複数患者の看護 (全員)

演習Ⅱ 複数患者のケアと突発的な事象への対処 (全員)

突発的な事象

ベッド脇にしゃがんでいる
「便が出そうなのでトイレに行こうと
思って」

A氏 (脳梗塞)

突発的な事象(5事例)

- ①「寒い、寒い」
- ②「暑い、暑い」
- ③酸素カニューレが外れる
- ④せき込む
- ⑤「新聞を取って」

B氏 (肺炎)

(4) 自主性・主体性を育てる工夫

- ① リアリティのある患者設定
- ② 質問形式での事前学習
- ③ 全生徒が体験
- ④ グループワークや演習の実施
- ⑤ 生徒の看護計画を肯定

6 データ収集方法

(1) 質問紙によるアンケート調査

- ・「演習前」
- ・「演習後」
- ・「統合実習後」

計3回、測定用具を用いて測定

※ 浅見健一郎「子どもの主体性尺度」を引用

※ 用語の定義(先行研究より)

「主体性は自主性に含まれる」

質問紙によるアンケート

	項 目	評 価			
1	あなたは、やることを人にいわれなくても、自分で進んで進みますか	1	2	3	4
2	あなたは、結果を気にせず、とにかくやりますか	1	2	3	4
3	あなたは、つまずいたとき、自分なりのやり方で乗り越えようとしていますか	1	2	3	4
19	あなたは、時々一人で考えて、自分の進む道を、よく考えてみますか	1	2	3	4
20	あなたは、時々一人で考えて、自分の進む道を、よく考えてみますか	1	2	3	4

- 1 あてはまらない
- 2 あまりあてはまらない
- 3 ややあてはまる
- 4 あてはまる

意図的な関わりによる
自主性・主体性の変化(数値化)

浅見健一郎氏「子どもの主体性尺度」より引用

6 データ収集方法

(2) 半構成的面接によるインタビュー調査

統合実習後、**インタビューガイド**を用いて実施

<半構成的面接の質問内容>

① 演習・実習がもたらした変化

自主性・主体性への影響因子と
気持ちや行動の変化

④ 他のメンバーと、どのような関係性になったか

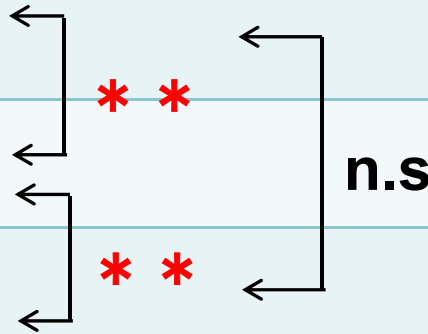
⑤ 「やる気が出た」または「やる気が失せた」きっかけ

7 研究結果

質問紙によるアンケート調査より

表1 「演習前後と統合実習後の主体性得点の比較」

(n=37)

	クラスの平均点(標準偏差)	
演習前	83.35 (±12.90)	 * * n.s
演習後	100.73 (±21.48)	
統合実習後	84.59 (±10.49)	
* * p<0.01 * p<0.05		t - test

演習前と演習後 : 1%有意差あり

演習後と統合実習後: 1%有意差あり

演習前と統合実習後: 有意差なし

表2「主体性高得点群と主体性低得点群(平均点)」

平均点 (標準偏差)	主体性高得点群	主体性低得点群
	99.06(±6.06)	79.88(±11.62)

「主体性高得点群」: 平均点を境に上位18名

「主体性低得点群」: 平均点を境に下位19名

表3「主体性得点と成績の関係」

(n=37)

	主体性 高 得点群	主体性 低 得点群	
演習成績	74.22 (±3.97)	70.16 (±5.20)	*
統合実習成績	88.17 (±2.93)	86.53 (±5.66)	n.s
総合成績	162.39 (±5.08)	156.68 (±8.12)	*
* * p<0.01 * p<0.05 t-test			

主体性高得点群は、成績得点も高い

半構成的面接によるインタビュー調査結果より

表4 コード分布

大カテゴリー	演習前	演習中・後	実習中・後	計
やる気に影響する因子	22	53	52	127
チームメンバーとの関わり	0	38	54	92
行動変容に影響する因子	0	8	64	72
想像がつかない	12	0	19	31
振り返りからの気づき	14	8	5	27
演習や実習に対する不安	0	14	12	26
目標の明確化	0	0	23	23
自己中心的	0	0	11	11
知識や経験の不足	0	0	3	3
合 計	48	121	243	412

表5 半構成的面接の分析(一部抜粋)

大カテゴリー	中カテゴリー	
やる気に影響する因子	演習前	複数受け持ちや突発事象に対応できるか不安がある
		演習に対する期待が高まり、やる気が出た
	演習中・後	演習に対する戸惑いがあり、統合実習に生かせるか疑問を持ち、やる気がでなかった
		演習することにより、学びや課題の発見があり、やる気が出た
	統合実習中・後	看護師の言葉かけや関わりでやる気が出た
		自分の関わりで患者さんに変化が見られたり、ありがたうと言ってもらえてやる気が出た
		チームメンバーや先生の関わりでやる気が出た

- ・自分のことしか考えられなかった
- ・何でも一人で解決できと思っていた

自己中心的

- ・複数患者の優先順位がわからない
- ・時間配分やケアの方法がわからない

知識や経験の不足

想像がつかない

- ・事前の学習不足
- ・予想がつかない

演習や実習に対する不安

- ・複数受持ちや突発事象に対応できるか不安がある

自主性にマイナスの影響

図1 質的研究結果 <演習前>

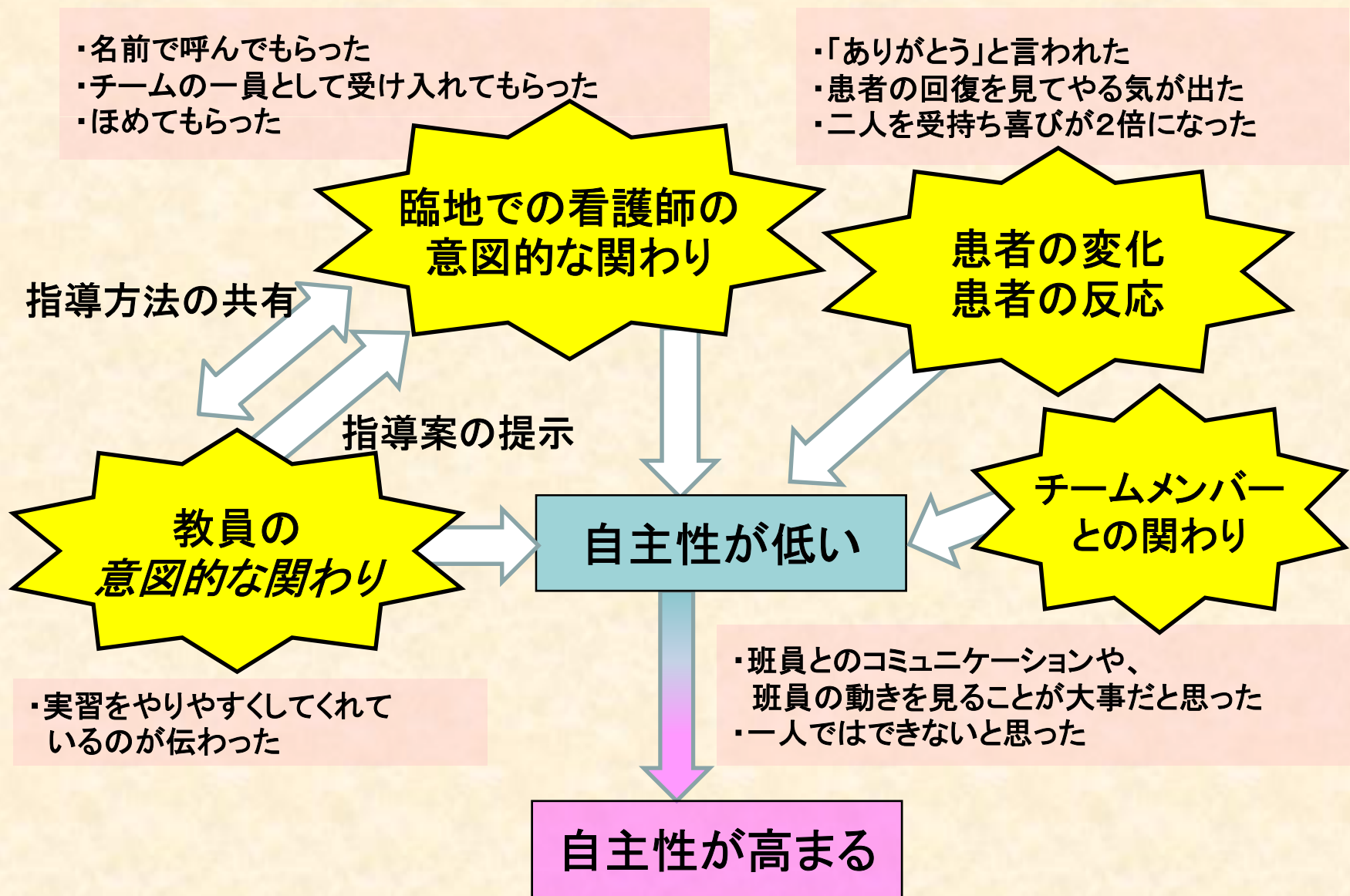


図2 質的研究結果 <演習後・実習後>

8 考察

アクティブ・ラーニングを活用した校内演習

思考力・判断力・表現力・技能を育成する

臨場感

患者の
主観情報

直面しそ
うな課題

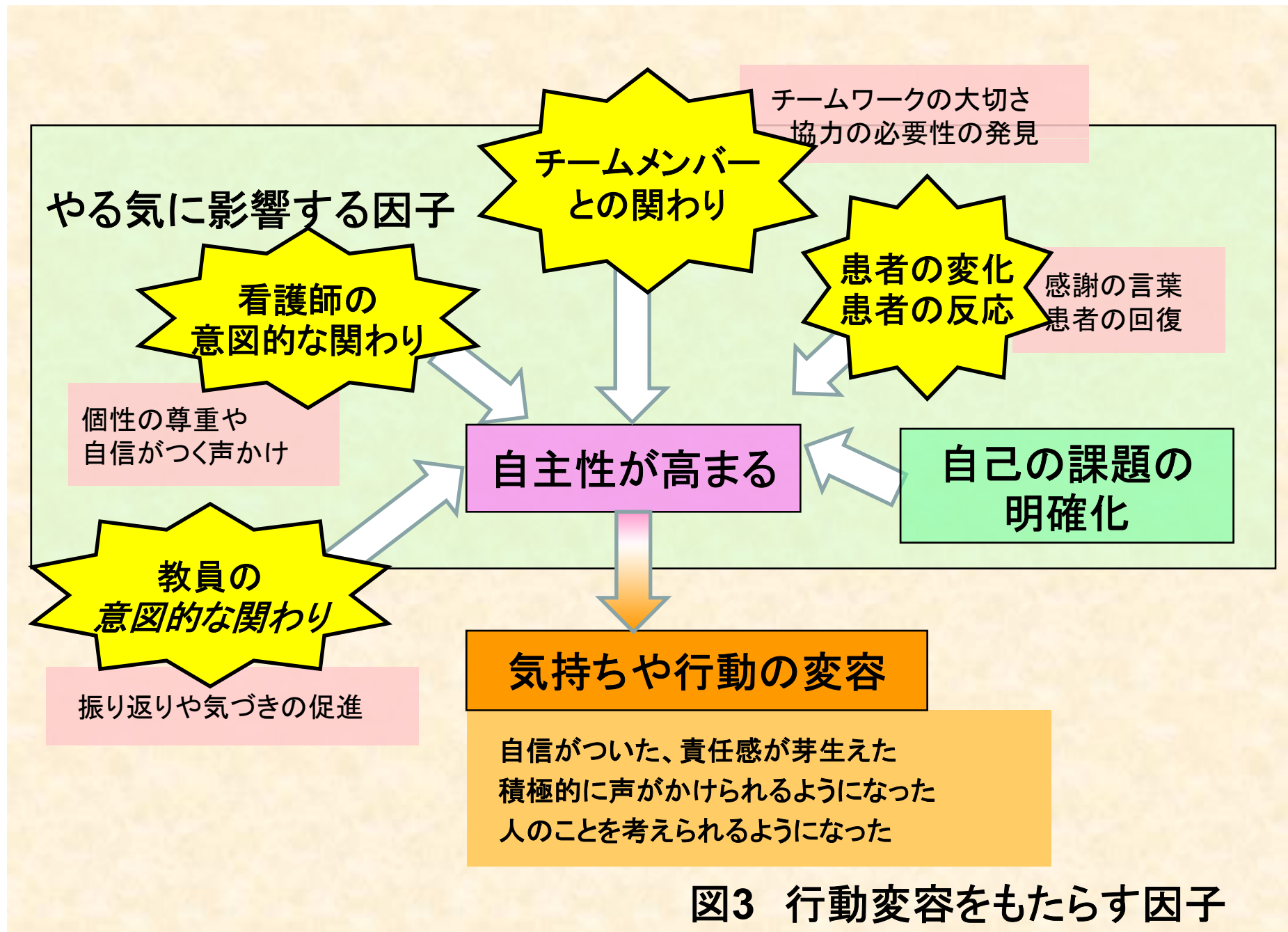
難易度が
適切

グループ編成の工夫

発言・考察を促す

フィードバック

- ① リアリティのある患者設定
- ② 質問形式での事前学習
- ③ 全生徒が体験
- ④ グループワークや演習の実施
- ⑤ 生徒の看護計画を肯定



9 まとめ

教員や指導者が**意図的に関わる**ことで
生徒の**自主性・主体性**が高まり、
自ら学び自ら考える力を持った生徒を
育てることに繋がった。

今後も臨床指導者と**共通認識**を持ち、
共に教育活動に取り組むことで、生徒の
看護実践能力の向上に努めたい。

ご清聴ありがとうございました



兵庫県マスコットキャラクター
はばたん